

わがまちは 県下第2位の 工業都市



昭和54年工業統計調査
結果がまとまりました

▲箱入りティッシュペーパーの製造

工業統計調査は、毎年全国の製造業を営むすべての事業所を対象に1月1日から12月31日までの1年間について調査を行います。この調査結果から、わが国の工業の実態をつかむことができるため、中小企業の振興や生産と流通の調整など、いろいろな経済対策の基礎資料として活用されています。

昭和54年の調査結果によると……………

市内には製造業の事業所が1,490あります。これは県下では6番目に多い数です。

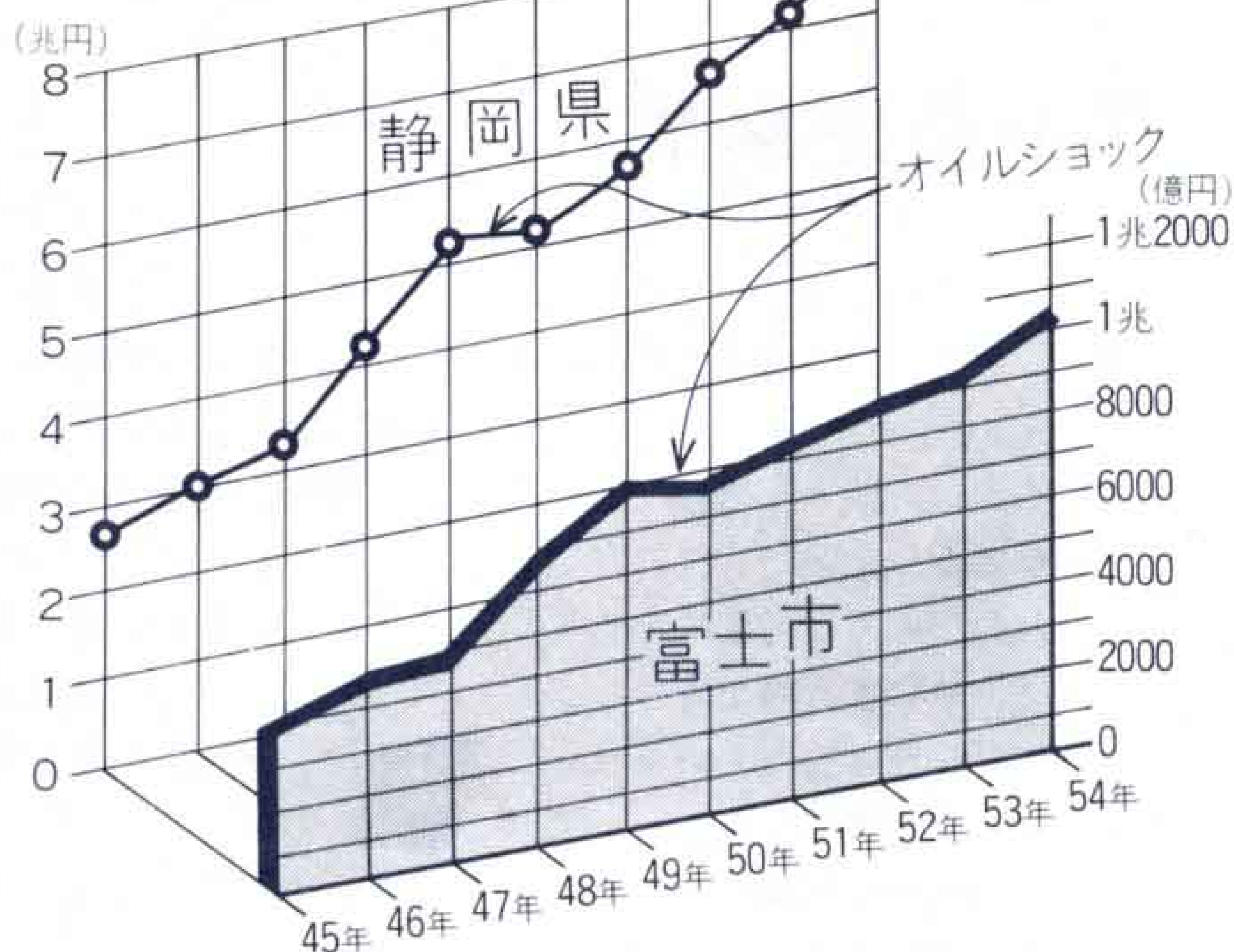
富士市が県下第2位の工業都市という理由はどこにあるのでしょうか。その理由は2つあります。

第1に、これらの事業所で働く従業員数4万6,077人が県下で2番目に多いからです。一番多いのは浜松市で8万2,354人。富士市につづいて多いのが静岡市、清水市、沼津市の順で県全体では、47万5,567人が働いています。

第2に、製造品出荷額等、つまり事業所で造った製品を売った額が浜松市の1兆934億円に次いで1兆710億円あったからです。この額は県全体の出荷額等8兆0,737億円の13.3%にあたっています。出荷額等で富士市に続くのが清水市、それから静岡市、沼津市の順になっています。この5市で県全体の出荷額等の半分をあげています。

富士市は「紙のまち」といわれるように紙・パルプ関係で全出荷額の38.3%をあげ、全従業員数の約3分の1が紙・パルプ関係で働いています。事業所も1番多く380事業所がこの関連です。

製造品出荷額等の推移



グループ訪問 ⑭



神戸青年団



「みなさん今晚は、只今から全体集会を始めます」団長の高野政彦君(24歳)のあいさつから始まる。議事進行役は、会員の秋山浩子さん(20歳)。「今回の議題は、6月28日の親子懇談会と7月23日に行われる神戸祭典、それにキャンプの実行委員選出です」

毎月第一火曜日の夜7時30分、神戸公民館に60人の会員が集まり、全体集会が開かれる。

全体集会では、今後の行事計画を検討する中で、会員から活発な意見が出される。

1つの行事を決めるのに、会員から多くの意見が飛び出し、なかなか決まらない。しかし、1度決まると全員が一丸となって突き進む。

行事の他に、大正琴、陶芸、教養講座なども青年学級として開いている。

神戸青年団の良さを会員の中本勇君(23歳)に聞くと、「同じ地域に住むというだけで、職業も年齢も考え方も違う青年同士、でも1つのことに対して話し合い、それに向って前進する。そこから友情が生まれます」と答えてくれました。

事務局は、神戸公民館 ☎ 21-2203